

さとう地区だよい

5A

広島医療生協 佐東地区

No. 10

佐東地区（川内・梅林・八木・緑井）

川内（小倉） 梅林（風越）

八木（山下） 緑井（坂川）

健康まちづくりセンター

(栗秋 082-879-8124)



認知症とその予防について

八木支部

5月1日に支部総会の後、認知症支援推進員の俵輝巳さんを講師に表記の学習会を行いました。

以前、「人間を死の恐怖から逃れさせたために『呆け』は神様の心くばり」と聞いたことがあります、そうは言っておられないのが現実です。認知症になることは長く生きれば当然のことも多い中、少しでも健全に生きるには「普段から脳にとって良い生活を心がけること」が大切だと学びました。脳を鍛えることの一つに「ふたつ以上のことに注意を配りながら行う」という行為や、あとはやはり栄養と運動、そして「集まる、出かける機会をもつ」などが必要だと言われました。

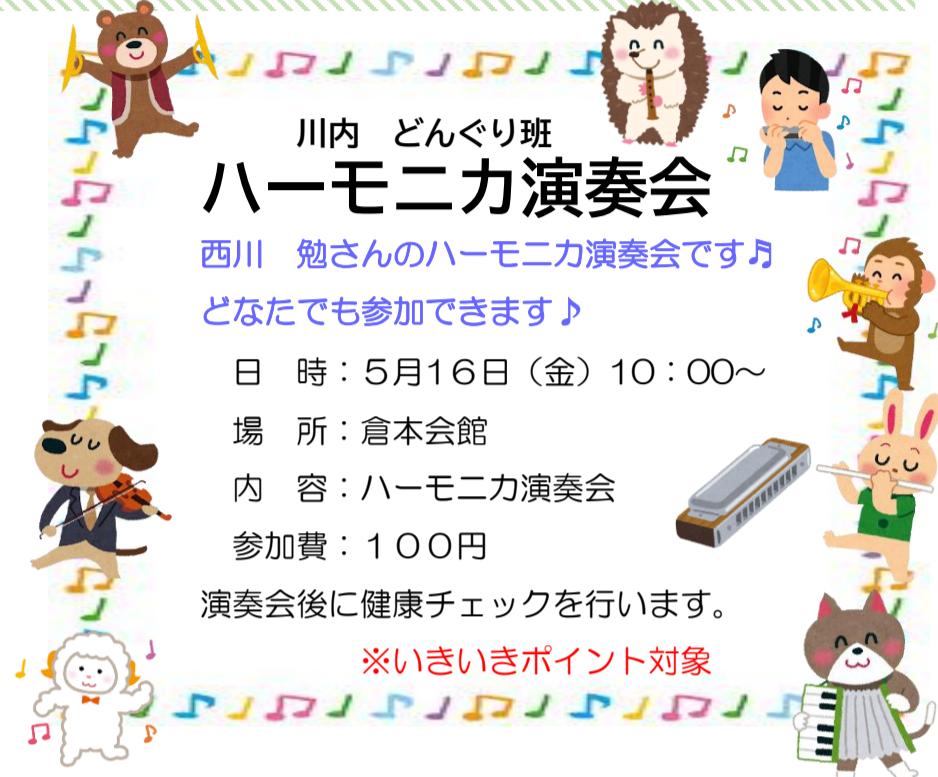
まさに、医療生協の会合や班会が最適ですね！

補聴器がいる年代になったか

右の聴力は働いている頃より少し悪かったが、60代後半になると日常生活でも少し気になりました。

聞き取れないときは、少し聞き取れなくても話について行けたが、年を取ると「はあ?」「何て?」と遠慮なく声を発するようになってきた。相手も嫌だろうし、自分も情けない思いをする。家でのテレビ視聴は日本語の字幕を入れて対応している。やはり補聴器を使ったほうがよいのか広島市では最近市議会に補聴器補助助成をとの取り組みが始まっている。補聴器助成自治体は22年114自治体、24年には375自治体と広がっている。(日本の自治体の数1,741)。

24年7月から日本耳鼻咽喉科学会がACジャパン支援の下、テレビなどの広告枠を通じて「難聴と認知症」の啓発キャンペーンを展開しています。また助成に反対してきた政党も賛成に転じています。また24年11月、日本耳鼻咽喉科学会が学会全体として本格的に動き始めました。今年7月参議院選挙を控え、市民要求が実現できるチャンスです。健康保険適用をも視野に、地域の団体・議員団とも連携し、粘り強く、補聴器助成の街づくり運動を私たちの地域で進めていきましょう。 (M支部長)



川内 そよ風班

日 時：5月21日（水）10：00～11：30

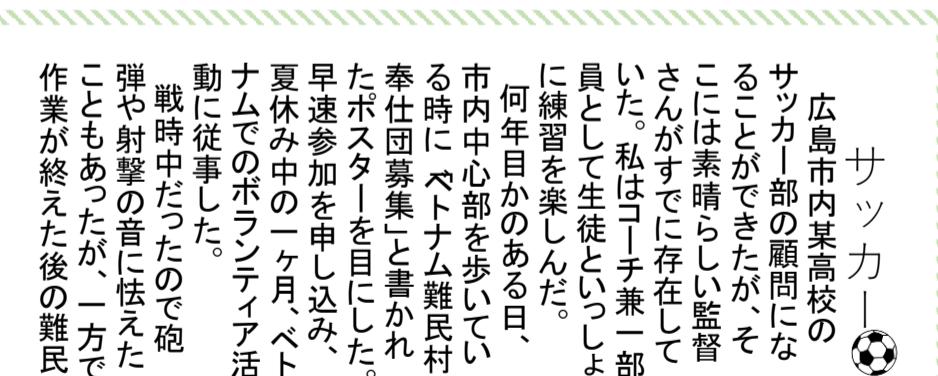
場 所：川内集会所1階

内 容：ゴキブリ団子づくり

会費（材料費）：200円

※いきいきポイント対象

どなたでもぜひご参加ください♪



世界の共通語
村の子ども達とのサッカーハが楽しかった。ベトナム語は全く分からなかつたが、いいプレーにベレ！」とか「ベッケンバウアー！」とか「グラиф！」と叫ぶと子ども達は大笑いした。
滞在中には当然の如く現地の青年チームと我がボランティアチームの親善試合も行われ沢山の観客が集まつた。まさにサッカーハベトナムでも相通じる「言葉」だつた
梅林支部
のましげる

